令和３（2021）年７月９日
京成電鉄株式会社
独立行政法人都市再生機構 東日本賃貸住宅本部

京成電鉄株式会社とＵＲ都市機構が包括協定を締結
～京成沿線の活性化により、住み続けられるまちづくりを目指す～

京成電鉄株式会社（以下「京成電鉄」という。）と独立行政法人都市再生機構（以下「ＵＲ都市機構」という。）は、千葉県内及び茨城県内をはじめとした京成電鉄の沿線地域等の活性化を目的として、2021 年６月 30 日に連携・協力に関する包括協定を締結しました。

千葉県内及び茨城県内には 126 団地、約９万戸のＵＲ賃貸住宅があり、これらの団地は鉄道やバスをはじめとした京成グループの生活インフラとともに地域に根差し、発展してまいりました。今般、沿線地域の持続的発展を推進する京成電鉄と多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちの実現を目指すＵＲ都市機構が連携し、地域活性化に取り組みます。

今後、京成電鉄とＵＲ都市機構は、中長期的な視点でソフト・ハード両面の施策を推進することで、沿線地域の価値向上を図って参ります。

《京成車両（3100 形）》

《団地外観（米本団地）》

１．背景

京成電鉄株式会社では、中期計画「Ｅ４プラン（2019～2021 年度）」において、沿線自治体等と連携し、エリアごとの実態に即した地域活性化施策に取り組むとともに、住民の生活に密接に関係する事業の充実を図るなど、沿線地域の持続的発展に資する投資を推進することにより、総合生活産業としてのプレゼンスを強化することを基本戦略の１つとして掲げています。

一方で、ＵＲ都市機構では、「ＵＲ賃貸住宅ストック活用・再生ビジョン」（平成 30 年 12 月公表）のとおり、高経年化している団地について、地方公共団体をはじめとする地域関係者との連携によりストック再生を行い、地域及び団地ごとの特性に応じた多様な活用を行うこととしています。

そこで、京成電鉄とＵＲ都市機構は、千葉県内及び茨城県内の 126 団地（約 92,500 戸）に及ぶＵＲ賃貸住宅ストックの活用・再生等や、各種施策への取り組みを円滑に行い、地域の価値創造に資することを目的に、包括的に協定を締結するものです。

２．締結者

・京成電鉄株式会社　代表取締役社長　小林　敏也　（こばやし　としや）
・独立行政法人都市再生機構 東日本賃貸住宅本部
　　東京東・千葉地域本部長　久保木　茂文　（くぼき　しげふみ）

３．主な連携事項

・ 京成電鉄沿線地域の魅力向上と活性化
・ 京成電鉄沿線地域で安心して住み続けられるまちづくり
・ 京成電鉄沿線地域におけるコミュニティの形成、発展

４．京成電鉄株式会社、ＵＲ都市機構代表者のコメント

京成電鉄株式会社　代表取締役社長　小林　敏也　（こばやし　としや）

京成グループは、中期計画「Ｅ４プラン」の基本戦略として「地域社会との共生による京成グループのプレゼンス強化」を掲げております。今回の協定締結を契機に、沿線地域の再生・活性化に合わせ公共交通の利便性向上に取り組むなど、地域発展に貢献して参ります。

独立行政法人都市再生機構 東日本賃貸住宅本部
東京東・千葉地域本部長　久保木　茂文　（くぼき　しげふみ）

ＵＲ都市機構は中期計画において、多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちの実現を掲げております。この度の京成電鉄との連携を通じて、団地を新たなチャレンジのフィールドと捉え、沿線地域における魅力あるまちづくりを推進して参ります。

以　上

【参考】連携イベントレポート

京成電鉄とＵＲ都市機構の包括協定締結を記念し、ＵＲ都市機構の米本団地における居住者コミュニティの形成及び活性化、団地居住者の生活満足度向上を目的に、イベントを実施しました。子どもたちは京成電鉄のミニスカイライナーの乗車体験やワークショップを楽しんだほか、京成バラ園を飛び出したミニバラ園が団地居住者の目を楽しませました。

（１）イベント概要

イベント名：ＵＲ都市機構×京成電鉄株式会社　連携記念
「米本団地に京成バラ園とミニスカイライナーがやってくる！」
開催日　　：2021 年５月 15 日（土）10:00～16:00
主催　　：京成電鉄株式会社、ＵＲ都市機構
協力　　：京成バラ園芸株式会社、日本総合住生活株式会社

左から UR 久保木地域本部長、
京成電鉄 金子取締役（当時）

（２）参加者の声

・「昔は子どもが多かったが今は高齢者が多くなっており、定期的に今回のようなイベント等があると賑わいがでていい」
・「イベントは、高齢者のコミュニケーションの場にもなる」

（３）関係者の声

・米本団地自治会
「米本団地のメインストリートをつかって何か団地が盛り上がるイベントをできたらいいとずっと考えていた。普段外にでない人が気軽に外に出て、知り合いを増やしていけるといい。このような取り組みを今後も継続できるといい」

・京成バラ園芸
「この度のイベントを通して、京成バラ園にお越しいただく機会のない方々にもバラを楽しんでいただけたのをうれしく思うとともに、今回『移動バラ園』という能動的な取り組みができたのは大変有意義でした。今後機会があれば他の多くの団地の方々にも”バラと夢と幸せ”を届けたいと思います。」